時事新報

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊無し

第二千九百二十五號　月曜日
明治廿四年二月九日
舊暦辛卯正月廿日　（乙、丑）

日出午前六時三十六分　日入午後五時十五分
月出午前六時五十四分　月入午後二時二十分
滿潮午前五時十六分　午後五時四十二分

（西暦一千八百九十一年）

時事新報定價

時事新報へ一年三百六十五日一日モ休刊セス其代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ

一枚二錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓

〇時事新報計リ直接ニ郵便ニテ遞送スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月十五錢ノ遞送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	一日以上六日迄	七日以上
一行ニ付	十二錢	十一錢	十錢五厘

各地方より時事新報の注文に付時事新報社は注文に接するも代價を受取らざる間は遞送せざる定めなるに新規注文の方には往々代價を添へずして唯だ注文のみの書面に止り本社は更に代價請求の端書を發し代金を受取るまで遞送を差控へ居り候事にて雙方の不便あれば御注文の節は必ず代價を添へて御申込被下度尤郵便切手代用は御斷申上候

代價を受取りたる時は直ちに新報を遞送し其帶封名宛の傍に何月何日と記入致し候是れは右の月日まで新報の代價遞送料共相濟候證に付別に受取書は不差出候左樣御承知可被下候

月曜日丼に大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の煩ゆに應ず此場合は時事新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に郵便の實費を申受く可し

時事新報

流行感冒と醫者

害多き猖獗を極めたる府下の流行感冒も過日の雨雪後は俄に頓挫の有樣ありと云へば引續き兩三日來の降雨にては全く其跡を絶つにも至るみとあらん凡そ此病の流行以來東京府下にて幾多の民生を惱したるや詳細の數は得て知る可らずと雖も醫者の手に斃りて其帳簿に姓名を留めたる患者の其外に米屋酒屋の賣高著しく減じ、鐵道馬車人力車の乘客少なく、又麩結湯屋あるも一時大に客の減じたる事相より下すれば府下の人口百五十萬と稱する中にて病に罹りたるもの凡そ三十萬人に下らざるみとあらんと云へり實に驚く可き數にして斯くも患者の數多ければ不幸中の幸とも云ふ可きは醫者の職業にて例年冬期は割合に病氣の沙汰少なく醫者の最も閑なる時なるに本年は之に反して前記の次第なれば定めて其收入も多きみとならんと思ひしに社會の視線は妙なるものにして醫家にては患者の多き割合に收入の多からざるのみならず實際には却て困難の事情も少なからずと云ふ其次第を聞くに一時流行の盛なる折に醫者は非常の繁雜にて日々病家廻りの忙はしきは勿論寒夜深更例を叩かるゝ等は毎度の事にして夜の目も眠らざる程の次第なれども扨その實際は如何と云ふに病家が醫者を待するに慢性重病の患者にて家族挙て心配し只管醫者の治療に依賴して他念なき程のものなれば其壺力の效も顯はれ隨て病家の之に賴るみとも自から薄からざるは自然の人情なる可し然るに今度の流行病は中には微病を引起して重症に陥りたるも少なからざる由なれども一般の心にては先づ病を疲るみと重からざる其上に一家内にて五人も六人も同時に枕を並べるやうの始末にて自然に醫者に依賴する情も尊ならざるが故に通常の病に比して自から異なる所なきを得ざる其有樣を喩へて云へば恰も火事に遇ふたると同樣家の混雜は非常にて手傳人の持あしとても冷酒握飯に過ぎざるが如く醫者も其應分として冷酒握飯の響應に滿足せざるを得ず之は非常の場合の常として致方なけれども其火事場の如き混雜は獨り病家のみに非して醫家の自身にも亦其混雜を免れずと云ふは患者の俄に多きが爲め醫家の藥局は非常の多忙にて人手もなければ藥劑も不足し急に雇入れ買入れなどする其混雜の中には或は配劑を誤りて不用と爲るもあり或は帳簿の記入を忘れて全損に歸する等その混雜も亦火事の騒きに異ならずして之が爲めに自家に生じたる損害不經濟も甚だ少なからざるよし左れば今度の流行病は醫家病家共に混雜を免れずして共に所損の少なからざるものなれども此際特に醫家の不仕合とも云ふ可きは昨今流行病の煩みたると同時に他の患者も非常に減少したる一事にして之には自然の働として流行病の行はれたる後迎ふるは餘り目出たき事にもあらずとて自然に差控ゆる氣味あるより斯くは醫者社會の不景氣を慨はしたるものならんと云へり左れば今年の流行病は民生一般の不幸なる其代りに醫者の爲めには豐年なる可しとの推量は實際に然らずして其結果の案外なるを見る可し蓋し社會の現象の往々人意外に出づるみとは凡そ斯の如きものならんのみ玆に聊か事實の一斑を記して世人の參考に供するものなり

雜報

〇墨國領事の歸任　曩に賜暇を得て歸國したる横濱駐在墨國領事グライトヰル氏は此程歸任したるを以て不在中領事代理たりし副領事ヒルヲ氏の代理を解きたりと

〇小林梅四郎氏　久しく本社の編輯に從事したる社員小林梅四郎氏は此度横濱貿易商組合の顧問に聘せられしが尚ほ氏は横濱貿易新聞の編輯をも監督する筈にて不日横濱に轉住する都合なりと云ふ

〇横濱貿易新聞の改良　同新聞は此度小林梅四郎氏が引受けて擔任するみとゝなりしに就き來る十七日より紙面に改良を施し實業專門と決定して内國農工商業、外國貿易等の進歩改良を期するを以て其主義とあすよりと云ふ聞く所に據れば同社は此際社内の改革をも行ひ從來の社員に辭任せるものもありしに就き新たに數名の記者を雇聘したるよし

〇東京石炭の景況（去る六日の續き）　東京石炭は無煙炭にして骸炭の分量甚だ多く揮發物少きを以て之を燃すに空氣の流通迅速なるを要す而して汽罐内に空氣の流通を良くするの仕掛は前記の如く鐵鋼を改造するの外別段面倒なきが如し然れば從來他炭を使用したる汽船にして一旦東京炭を常用とあさんとするに方り其汽罐内改造の失費は甚だ些少なるが故に東京炭が一般に使用せらるゝに至るの迄に於て大なる障碍なきを知るべし併し其改造は鐵鋼の棒と棒との間を廣くするにあれば燒然する所の石炭に大塊ならざるべからざるを以て從て炭を使用するの途に苦しむべし故に粉炭使用の道を發見するまでは坑主は止むを得ず塊炭の價格を引上げざるを得ざるべし玆に一問題あり歐洲と支那日本間に航する荷船の如きは支那海に於ては東京炭を使用する事とするも一旦新嘉坡以西即ち東京炭の不廣なる場に至り濠洲產其他の石炭を使用せんとするに方り容易に鐵鋼を仕替る事出來得べきや若し航海中に出費を要せず容易く之をなし得れば都合最も良し若し出來さる場合に於ては其不都合云ふへからざるものあらん目下此點に付ては判然せざるが如し東京炭が愈々香港の市場に出つる後其景況如何なるへきやは今より之れを豫知する事頗る難しと雖も此點に付當業者の意見を叩くに曰く凡そ新奇なるものを好むは人情の常なり當今何事も競爭の世の中にて殊に海運の競爭は日一日に甚しく東洋沿海に貨物を積載する汽船の數は年々增加するの勢ひあるを以て汽船會社に於ては些少の失費たりとも減し得る丈は減し以て他と競爭を容易にせんとする有樣なれは東京炭一旦香港の市場に顯出するにいたれは汽船は勿論陸上の工場とても一度は必らず此の新炭を試みるに至るへし只だ其の後の景況に至りては將來の實績を見て知るへきありと且つ東京炭坑會社は前記に述ふるおとく當港に於て其の石炭の販路を開くよ最も便宜を得たる一事を擧ぐれば同會社重役の一人あるシーピーナエーター氏は香港立法議會の議員にして紳士の富豪家なり專ら株式取引を營み現に香港株券の買賣は同人與りて力ありと稱し英人及支那人中に最も勢力ある人にして現に此人當港に於て石炭賣捌めの要衝に方り居れり又株主の一人なるヂエーヂエーケッヰッキ氏はヂャーデン　マヂソン商會の香港支店長あり亦立法議會の議員にして且つ數箇株式會社の頭取を兼ね頗る有力家たりヂャーデン　マヂソン商會は世人の知る如く支那沿岸三大汽船會社の一なる印度支那汽船會社の總理督監を司る者なれは石炭を使用する頗る多し故に同商會に於ては東京石炭一旦市場に出つるに至ては從來使用する所の日本產を棄て此石炭を採用するや知るべからず東京炭坑會社にては獨り香港のみならん上海にも二名の社員を出張せしめ專ら同地に顧客を求むる計畫類りありと云へり東京石炭は香港に於て何程の價にて賣買せらるべきやは未だ判然せず然れども信ずべき報道によれば若し日本炭と競爭するに於ては山元にて一噸二弗に運賃一噸に付一弗を加へ當地にて三弗にて賣却するを得べしといふと雖右は最低價を示したるものにて到底同社の巨萬の資本に對し相當の利益を得んとせば當地にて一噸五弗内外に賣却するを要すべしと云ふ聞く石炭が當市場に出つる第一の影響は深淵炭の輸入を擁塞するにあるべし日本炭も亦大に其輸入高に減少を見るは必然の勢なるべければ日本石炭中眞實のものは其價格を減にすれば隨分東京炭と競爭して其地位を保持するは難きに非ざるべし故に日本炭坑主は今より宜しく其計畫を怠るべからず　（完）

〇茶業組合中央會議　目下赤坂區溜池なる大日本農林會の議事堂に開會中の年度定式會へ第三號議案として茶業組合中央會議所の要領は紅茶製造及び仕揚方の奬成し地位は京都に茶製造及び仕揚方の費用は中央會議所の製茶會社に依托して茶業に對し過る五日午後者の要旨は日本製茶會社の上今又傳習所設置の擔に耐へざるべけれと論ずるもあり又紅茶も一時我國の綠茶も一收入に至りては僅に向ある思ふべし故に得る處の金額も多は躰に於て緊急の事件說をなし之れに向つて說が勝を占め一次會を開きたるに次會を開きたるに原案に就ては異見百大分、高知等に設けらんと云ふもあり論所に因り經費に增減必要ありと論じ遂して閉會を告げたる目に渉り其三次會同は芝口なる業場中央會議所に於はず月迄の會計報告書中六十五錢二厘とあるみと及び四百八十四の項目は豫算外の費一二號議案の內一に決せしが右に對し同處分に關する議にて査定中なれ共にて全議を結了す

〇電極檢査法實施會　笠山嗣二郎、三浦春檢査法實施會あるし

電極檢査法實施會の發今や我國電業社會の發正より急なるはなし抑求めんには第一電極法見るあり電業に電極檢狂奔甚に急なり予期國り微眼微尾或は失をせんと欲す

一本會は電極檢査法實施會の發起人なり

一本會事務所は大阪市

一本會は東京電燈會社

動をなす事

各郡に若干名の委

電線を連通する事

一時官により公開

一上京して同行の

九州各縣に電線を

一電縣州出資業兩

一本會の費用は同

一義捐金は各郡委

す

一義捐金は左の科目

一東京電燈會社

一上京委員の予算

一本會一切の費用

但實際上運動